

職員教育の状況

当院における職員教育の状況について、コロナ禍よりオンライン開催で対応していた研修をすべて対面での実施に戻した。また、世界水準の臨床及び研究を推進している日本屈指の私立大学病院として、現場での実行力強化を目的とした教育機会の設定が必要と考え、2023年度はそれらに関連する研修を下記の通り実施した。

1. 新任役職者向け階層別研修

新任役職者を対象とし、マネジメントや役割理解を中心とした研修を時代にあった内容に大幅に見直して実施した。活気ある組織運営のため、繰り返し実施していく。

2. 若手職員向け教育

各年次での習得が望ましい「コミュニケーションスキル」「論理的思考」「主体性強化」や「問題解決思考」に関連する研修を実施し、若手職員の能力開発を全学的に行った。あわせて、昨年度事務部門のみで実施していたエクセル研修も実務へ応用できるレベルで全学展開し、業務効率化に寄与するスキル獲得を目指した。

3. 一次救命、二次救命教育

院内の全ての教職員が一次救命処置を行えるよう、一次救命教育を徹底した。また国際基準により、鎮静処置・急変対応ができる体制が求められているため、鎮静・麻酔実施エリアの教職員が常時対応できるよう二次救命教育を再開した。

上記を軸に各対象層に広く知識習得の場を提供してきたが、今後も教職員数が増加し、環境変化も大きい中で、より多様なテーマでの教育機会の提供が必須である。安全な医療を提供し、教職員もいきいきと働ける組織づくりのため、引き続き関係各所と検討を進める。